

## ⑤ エの検討例

意思の  
表明

宿題をしなくちゃ！でも、全部はできないことがある・・・。

背 景  
実態把握

Aさんの場合（小4：通常の学級）

・学年相当の学習内容は理解しているが、字を書くのに時間が掛かったり書き間違いが多かったりする。

Bさんの場合（小4：通常の学級）

・家に帰るとゲームが気になる。宿題で分からないところがあると次に進めない。

Cさんの場合（小4：通常の学級）

・母親と宿題をするが、「分からない」と言って泣いてできない。計画帳もほとんど書いていない。

学校の  
基礎的  
環境整備

- ・特別支援学校のセンター的機能を活用している。基(1)
- ・知的障がい特別支援学級の担任が特別支援教育コーディネーターを担当している。基(2)
- ・必要な児童に個別の指導計画を作成している。基(3)
- ・特別支援教育支援員がいる。基(6)
- ・学習アシスタントが週1回放課後の個別学習指導をしている。基(7)
- ・地域の特別支援学校と交流及び共同学習をしている。基(8)

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーターで相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・学年主任・学習アシスタントで相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・学年部の教員・特別支援教育コーディネーター・特別支援学校の教員で相談・協議

検討  
決定  
提供

合理的配慮の内容

- ・特別支援教育コーディネーターが様々な升目のノートや書き方を提案し、やりやすい方法を本人と確認する。①-2-1
- ・かっこ抜きの部分だけ書くようにするなど宿題の量を調整する。①-1-2
- ・授業では、板書計画のコピーを渡し、本人が書くべき量を減らす。①-1-1

合理的配慮の内容

- ・学級担任が本人・保護者と家庭での過ごし方、本人のしたいこと、しなくてはならないことを確認する（帰宅後、1時間はしたいことをし、その後しなければならぬことをするなど、本人に合う生活スケジュールを作成する。）。計画を実行できたか学級担任がチェック表で確認する。①-1-1
- ・宿題の分からないところは「？」シールを貼ってくるようにして、その部分は、放課後、学習アシスタントに教えてもらうようにする。①-2-2

合理的配慮の内容

- ・定期的にケース会議を持ち、支援する内容・方法を明確にし、学年部で共通理解を図る。②-1
- ・計画帳は一部だけを写すようにし、特別支援教育支援員が、書く場所や内容を伝える。①-1-1
- ・宿題は一部だけ抜き出して量を減らしたり、本人ができる内容に変えたりする。①-1-2
- ・計画帳やノートで記入できていない部分については、板書計画や友達の手帳をコピーして持ち帰ることができるようにする。①-2-1

宿題をして提出できるようになったよ！

評価  
見直し

- ・かっこ抜きの部分だけ書くような宿題にすることで、出された宿題を全部提出できるようになった。
- ・来年度からは学級担任以外の教員が授業を担当する教科が増えるため共通理解をする必要がある。

- ・タイマーを活用することで、ゲームをやめて宿題をすることができた。学級担任によるチェック表の確認はなくてもよい。
- ・宿題で分からないところがある場合は、今後も学習アシスタントに教えてもらうようにする。

- ・宿題の量を調整することで、提出することができた。しかし、本人が一人でできる内容に限られているため、放課後に学級担任が個別指導をするなど、学習の補充が必要である。